

## 包括的な学校改善の推進に向けた校長のマネジメント

中核校	標茶町立標茶小学校	指定校	標茶町立磯分内小学校、標茶町立沼幌小学校 標茶町立標茶中学校
-----	-----------	-----	-----------------------------------

### 実践前の状況

- ・目標設定の在り方や省察、評価の在り方等、PDCAサイクルが学校改善に直結するようにシステム化する必要があった。
- ・教師自身の学びの在り方（「研修観」）を転換し、授業改善に直結させるために、これまでの校内研修のスタイルで対応することが難しかったことから、校内研修の在り方を改善する必要があった。

### 実践の概要

- 育てたい資質・能力や役割、ゴールイメージを明確にした経営方針の提示
  - ・全ての教育活動計画について、学校として育成を目指す4つの資質・能力から重点を選択して具体的な児童の姿を設定するとともに、設定した児童の姿を基にして取組を評価し、改善に向けた即時プランニングを行うシステムを構築した。
  - ・各分掌において、児童の実態に応じて共通指導事項から重点化を図る項目を月ごとに選択し、各学年でどのように指導すべきかを明確にした。その際、児童による指導者に対する評価を行うことで、教員が指導の効果を分析できるよう留意した。
- 教員の研修観の転換を図る校内研修スタイルの確立
- ・教員の研修観の転換を図ることを目的として、校内研修に「個別最適な学び」、「協働的な学び」に係る要素を取り入れ、教員一人一人の課題意識に基づいた課題解決型の研修を推進するための体制を確立した。

身に付けさせたい事項	教師の指導（具体的な共通指導）
○チャイムが鳴る前に席に着く。	○授業前後の挨拶を姿勢正して行うよう伝える。 ○時計を見ながら行動させたり、始まる1分前等に声をかけたりする。 ◆次の授業の準備をしてから休み時間にするこも同時に意識させる ・担任もチャイムと同時に授業を始め、終わる。 ・特別教室、体育館での授業は終わりの時刻に配慮する。 ・夏休み明けのリスタートに、落ち着いた雰囲気を作っていく。

### 【指導の在り方を共有する評価システム】



### 【教員個々の研修状況をクラウドで共有】

### 実践の充実に向けた取組の工夫

#### 〔校長の取組〕

- ・ゴールイメージを明確にした経営方針の作成に当たって、事務職員等を含む全教職員から、学校全体で共有を図りやすくするためのよりよい内容やレイアウト等に係る意見を求めるなど、校内で中核となる教職員が自ら学校改善に向けた取組を推進できるよう留意した。
- ・校内研修の転換については、事前に研修部長と協議し、単元レベルで育てたい資質・能力を明確にした構想、教員の経験やライフワークを踏まえ、自身の授業と向き合い課題を意識した省察、次の日の授業について、工夫すべき点の意識、個別の課題解決について、次の実践にプラスになるアイデアを出し合う協議の工夫、の4つの要素の実現に向けた方策について指導した。

#### 〔事務職員及び専科教員の取組〕

- ・事務職員を中核とした働き方改革、専科教員が先導的に推進する授業改善について、ゴールイメージと達成に向けた取組について、育成を目指す資質・能力の重点を位置付けた「グランドデザイン」及び「ロードマップ」等に示し、全教職員が、全ての教育活動が教育目標の達成に向けた取組であることを意識できるよう留意した。

### 成果（ ）と今後の課題（ ）

目標設定を育成を目指す資質・能力の重点に帰着させることにより、様々な教育活動が学校の教育目標の達成に資するものとなり、全教職員の意識のベクトルを揃えることができた。

〔学校評価（教職員）の「教育目標の達成に向け、学校が一体となって教育活動を展開することができた」の項目について、肯定的な評価が増加した。（R4：75% R5：88%）〕

校内研修の体制を転換することにより、日々の授業に対する教職員間の対話が増え、児童の姿で自身の授業を省察することが日常的に行われるようになった。

〔学校評価（教職員）の「今年の研修は自身の授業改善につながりましたか」の項目について、肯定的な評価が増加した。（R4：78% R5：92%）〕

今後も、日常の授業改善を経営の中心に据え、児童が学びのネットワークを活用しながら個別でも協働でも自在に学ぶことができる「自立的に学ぶ」授業が展開されるよう、校長のリーダーシップに基づいた指導性を継続して発揮する必要がある。